

【論文】

一次史料から立ち上げる治河協力社の研究  
—金原家文書「事務書類」を手がかりとして—

伴野 文亮

東北大学大学院文学研究科

1. はじめに

本稿は、一橋大学附属図書館が所蔵する金原家文書にある治河協力社関係資料の一つである「従明治十六年九月事務書類」（史料番号：KM22-19-18、以下「事務書類」と表記）を手がかりとして、近代浜松の実業家・金原明善<sup>1</sup>（1832-1923年）が有志とともに1874年（明治7）に設立した治河協力社の「事務」の内実を考察するものである。

金原明善の天竜川治水事業と治河協力社については、明善が戦前から「偉人」として顕彰されてきたこともあって、既に多くの研究が積み重ねられている<sup>2</sup>。だが、それらの多くは概して、「偉人」としての明善の事績を顕彰する論調が強く、明善の取り組みを客観的に歴史化したものは少ない。そうしたなかであって、明善の取り組みを一次史料に基づいて実証的に歴史化したのは、新谷九郎であった。新谷は、当時土屋喬雄監修のもとに金原治山治水財団が進めていた明善の伝記編纂のなかで、本編にあたる『金原明善』<sup>3</sup>を著した。『金原明善』は、金原家と金原治山治水財団が所蔵していた膨大な数の一次史料を素材として明善の人物像と事業を叙述したもので、その時点での金原明善研究の到達点であった。同書のなかで新谷は、治河協力社の基礎的考察を行い、明善が「官からも、また地方公共団体からも、財政的にも、技術的にも独立して、独自の治水事業を遂行しうる団体を一日も早く確立しようとする目的をもって、社を運営していたといいうるのではないか」と述べて、明善の実践を評価した<sup>4</sup>。その後の金原明善と治河協力社についての研究は、この『金原明善』と、『金原明善』の刊行と併せて編纂された『金原明善資料』（上下）をもとに紡がれ<sup>5</sup>、今日では斎藤新<sup>6</sup>や渡辺尚志<sup>7</sup>による地域史の視座に基づく精緻な研究成果を得るに至っている。

だが、新谷以降の明善研究が依拠してきた『金原明善』および『金原明善資料』は、限られた紙幅で編纂された二次資料であり、特に資料集は後述するように所々史料を割愛して収録したものも少なくなく、今もって明善と治河協力社をめぐる歴史の全体像が描かれた

とは言えない。2016年に金原家文書が一橋大学附属図書館に所蔵されたことで、一次史料に基づく研究が可能になった今こそ、一次史料を用いた実証的研究が研究史の課題として指摘できると考える<sup>8</sup>。

そこで本稿は、具体的な一次史料を用いて治河協力社の歴史化を試みる。具体的には、一橋大学附属図書館が所蔵する金原家文書のなかにある「事務書類」を分析対象にして、同社の「事務」の内実を詳らかにしたい。本稿で詳らかになるように、改めて一次史料に即して治河協力社の実態を考察することで、治河協力社の新たな歴史像を垣間見ることができた。では、具体的にどの様な事実が明らかになったのか。その点については第3節以降で確認していくことにしよう。ひとまずは、そもそも金原家文書とはいかなる史料群なのか、そこにはどの様な史料が存在しているのかについて見ていきたい。

## 2. 金原家文書の性質と内容

本節では、今回の分析で扱う「事務書類」を含む金原家文書にはいかなる歴史資料があるのかについて簡単に紹介しておきたい<sup>9</sup>。

2021年3月現在、金原家文書は、目録件数で8902件を数えることを確認している。総点数については、仮目録を作成する過程で「書簡一括」として採録したものも多数あるためまだ確定できていないが、数万点に及ぶと推定される。年代をみると、近世前期から戦後にかけて幅広く残存しているが、多くは明治・大正期に作成されたものである。同文書の性格としては、①金原家伝来の歴史資料と、②金原治山治水財団が明善の伝記を編纂するために収集した歴史資料の二系統から構成されている。史料の内容についてみると、i) 明善個人や彼が展開した事業に関する史料、ii) 蔵書や年忌法要の記録といった金原家の歴史に関する史料、iii) 浜名耕地整理組合や躬行同志会など遠州地域の歴史に関する史料という、大きく分けて3種類の性格が指摘できる。同文書には、明善個人に関する史料から彼の家族もしくは「家」に関係する史料、さらには地域の歴史をうかがい知ることのできる史料が数多く遺されており、歴史学のみならず経済学や経営学など様々な分野の知見から学際的に活用されるべき史料群であるといえよう。

つぎに、本稿で扱う治河協力社に関する史料にはどのようなものがあるか、いくつか紹介しよう。

文書類では、1874年（明治7）に作成された「治河協力社規則」や1881年（明治14）

に職制を変更した際に作成された「治河協力社規則職制並章程」、1883年（明治16）1月4日から同年12月31日までの治河協力社の収入・支出金額が細かく記載された「出納簿」などがある。これらの多くは、1968年（昭和43）に金原治山治水財団が編纂し刊行した『金原明善資料』（上下巻）に収録されているが、簿冊類を中心として紙幅の都合上「抄録」という形式で収められたものも多く、史料の全体像が分からないため研究に使用することが難しかった。それが今回オリジナルな資料で発見されたことで、史料の全体像を押さえた上で研究に資することができるようになったのである。これらの他にも、1880年（明治13）から1886年（明治19）の間における治河協力社の土地集積のプロセスがわかる「地所売買録」や、宛名が「治河協力社社長 金原明善」とある借用金証書の数々など、同社の金融や資産に関する史料が多数確認されている。

また、上記のほか、明善が天竜川治水の担い手を育成するために創設した水利学校に関する史料も複数存在している。主なものとして、水利学校社費生<sup>10</sup>たちが治河協力社（もしくは明善個人）から金を借りる際に作成したと思しき借用金証書、すなわち借金証文がある。この史料からは、合計8名の社費生が治河協力社と明善、あるいは同校で教鞭を執っていた戸川深見<sup>11</sup>から金を借りていた様子がうかがえる。もっとも多くの金を借りていたのは鈴木治三郎という人物で、借用金の合計は288円70銭であった（表1）。鈴木は、遠江国第十一大区五小区豊田郡前野村（現静岡県磐田市）の鈴木利作の長男で、1878年（明治11）2月25日に「治河協力社々費生徒ニ選挙」されて水利学校に入学し、80年5月には予科の課程を「卒業」していることが分かっている<sup>12</sup>。彼が借金をした理由をみると、理由は様々あるが、多くは荒川筋や関宿などに「留学」している間に発生した「臨時入用」によるものであった<sup>13</sup>。

複数いた社費生徒のなかでも特筆すべきは、川島滝蔵という人物である。川島は、1858年（安政5）8月13日、遠江国磐田郡於保村大字濱部（現在の静岡県磐田市）に生まれ、政治家であるとともに地域の実業家として活躍した人物であった<sup>14</sup>。川島は、19歳のときに父の代理で治河協力社社員となって社務に従事し、その後水利学校の「塾幹」となって約2年間、生徒を監督しつつ自身も同校で学んだ。

表2は、2021年3月現在確認している、川島が社費生の時代に明善から金を借りたことがうかがえる借用金証書の一覧である。これをみると、1880年（明治13）6月19日から1881年（明治14）10月22日の期間に川島が計6回にわたって明善から総額195円を借用

表1 鈴木治三郎による借入金証書一覧

| 借用者名            | 宛所       | 金額      | 借用年月日       | 備考                                  |
|-----------------|----------|---------|-------------|-------------------------------------|
| 鈴木治三郎代理<br>山下長作 | 金原明善     | 10円     | 明治12年5月26日  | 売ヶ年金三拾円無利足ニテ拝借可仕御<br>約定之内前頭受納借用     |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 10円     | 明治13年5月27日  | 樋之口村留学中前記金員借用                       |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 8円      | 明治13年8月10日  | 年金三拾円無利足之内借用                        |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 8円      | 明治13年10月11日 | 年金三拾円無利足之内借用                        |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 15円     | 明治14年4月30日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付拝借                       |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 15円     | 明治14年8月13日  | 荒川留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社出納掛 | 20円     | 明治14年12月30日 | 荒川留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 15円     | 明治15年5月16日  | 閑宿留学中臨時要用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 10円     | 明治15年7月4日   | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 15円     | 明治15年9月3日   | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 10円     | 明治15年12月30日 | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 15円     | 明治16年1月2日   | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 15円     | 明治16年4月15日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 10円     | 明治16年6月18日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 10円     | 明治16年8月21日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計掛 | 20円     | 明治17年1月3日   | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計係 | 10円     | 明治17年4月13日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計係 | 10円     | 明治17年6月19日  | 閑宿留学中臨時入用ニ付借用                       |
| 鈴木治三郎           | 治河協力社会計係 | 10円     | 明治17年7月22日  | 利根川留学中臨時入用ニ付借用                      |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 20円     | 明治17年8月8日   | 脚気病ニ付箱根表江軋地候ニ因                      |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 15円     | 明治17年10月10日 | 病氣出京療養中臨時入用トシテ本年分<br>御予約御貸与金額外ヲ以テ借用 |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 10円     | 7月10日       | 金子一ヶ年金三拾円無利足之内借用                    |
| 鈴木治三郎           | 金原明善     | 7円70銭   | 8月19日       | 金子戸川先生より借用                          |
| 合計              |          | 288円70銭 |             |                                     |

【備考】金原家文書KM-19-40およびKM-22-1をもとに筆者作成。

表2 川島淹蔵による借入金証書一覧

| 借用者名 | 宛所   | 金額   | 借用年月日       | 備考               |
|------|------|------|-------------|------------------|
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 30円  | 明治13年6月19日  | 豆州葦山留学中臨時入用ニ就キ拝借 |
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 30円  | 明治13年10月6日  | 伊豆地留学中臨時入用ニ付前金拝借 |
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 20円  | 明治13年11月22日 | 無拠要用ニ差支          |
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 40円  | 明治14年4月17日  | 学業中要用ニ差支         |
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 50円  | 明治14年9月15日  | 総地留学中臨時入用ニ就キ拝借   |
| 川島淹蔵 | 金原明善 | 25円  | 明治14年10月22日 | 留学中臨時入費ニ差支       |
| 合計   |      | 195円 |             |                  |

【備考】金原家文書KM-22-1をもとに筆者作成。

していたことがわかる。借用の理由をみると、伊豆・葦山や「総地」（上総）での「留学」中に発生した「臨時入用」のほか、具体的には分らないが「無拠要用ニ差支」えたことなどがある。『小伝』によれば、「余ハ金原氏ノ知遇ヲ受ケ氏ノ援助ニヨリ伊豆国葦山町柏木忠俊君ノ後室方ニ寄寓シ同地方ノ有力家仁田常種君其他ノ経営セシ牧羊、開墾、試験場ニ入場実習スル」とあり<sup>15</sup>、川島が旧幕臣で葦山代官所手代を務めた柏木忠俊の後室のもとに寄留し、葦山で畜産業を営んでいた実業家・仁田常種<sup>16</sup>らのもとで「実習」に従事していたことがわかる。借入金証書に記された「留学」とは、この仁田のもとにおける「実習」のことを指すと思われる。明善は、国内のあちこちに「留学」して河川土木に関する勉強に励む生徒たちに対し積極的に金銭的な援助を行っていたが、土木と直接関係のない牧畜に関する実習に従事していた川島にも金銭的な援助を行っていたのである。

以上のように、同家文書のなかには、治河協力社とその関係者にまつわる様々な歴史資料が存在していることがわかる。今後は、これらの史料を活用しながら、治河協力社の実態を詳らかにしていくことが求められる。

### 3. 金禄公債証書の保有による事業資本の確保

本節および次節では、金原家文書にある「事務書類」という史料を分析の手がかりとして、治河協力社の「事務」の具体的な内容と、そこからうかがえる治河協力社の歴史像について検討してみたい。なお、同史料は、『金原明善資料』下に「事務書類」として翻刻・収録されているが<sup>17</sup>、註で内容を抜粋している旨が表記されているとおり、資料集には完全体では収録されていない。そこで本稿では、資料集に収録されていない部分を翻刻し、そこから浮かび上がる治河協力社の「事務」の内実をみていくことにしたい。

具体的な内容の検討に入る前に、「事務書類」の概要を見ておこう。表3（別添）は、同資料の構成をまとめたものである。表をみると、「事務書類」は全部で54件の内容から構成されていることが分かる。それらの多くは、官庁からの達しといった公文書の写しなど、記録用の手控えとして筆写された書類である。内容をみると、同社で働いていた社員の氏名とその動静がうかがえるものや、同社の運転資金の収支が分かるものなど多岐にわたる。そのうち、資料集に翻刻・収録されているものは27件であり、残りの27件は未収録であった。この27件が資料集に収録されなかった要因は、明確には分らないが、恐らく内容的に治河協力社の事業に直接関わるものではないと判断されたために、資料集編纂の段階で割愛されたと考えられる。しかしながら、内容を細かくみていくと、資料集に収録されなかった部分も治河協力社の性格を検討する上では極めて重要な素材であることがわかった。一例を挙げれば、天竜川の水位や水量を記録するための用紙の購入方法をめぐる長野県とのやり取り（表3の31）など、天竜川治水に直接的に関わる事柄が挙げられる。その一方で、直接は治水工事に関わらない事柄もいくつか業務として存在していたことが分かる。では、具体的にどのような内容が割愛されていたのであろうか。紙幅の都合上、そのすべてを紹介することは難しいので、ここでは以下2点に絞ってみよう。

最初に見るのは、静岡県会計課との間で交わされた金禄公債証書の預託をめぐるやり取りの軌跡である。「事務書類」をみると、1879年（明治12）から1884年（明治17）の間

表4 金禄公債証書をめぐる治河協力社（明善）と静岡県との交渉一覧

| 表3に<br>おける<br>番号                    | 項目                                 | 年代          | 作成                | 宛所              |
|-------------------------------------|------------------------------------|-------------|-------------------|-----------------|
| 49                                  | 証(金禄公債証書1250円分正に預置候二付)             | 明治12年9月16日  | 静岡県会計課            | —               |
| 4                                   | 記(七分利金禄公債証書額面2万5980円也)             | 明治16年11月15日 | 治河協力社社長 金原明善      | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 5                                   | 記(七分利金禄公債証書額面2万8100円県庁御預分相違無御座候二付) | 明治16年11月15日 | 治河協力社社長 金原明善      | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 6                                   | 記(七分利金禄公債証書3万6780円分県庁御預分相違無御座候二付)  | 明治16年11月15日 | 遠江国長上郡安間村 金原明善    | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 11                                  | 証(金禄公債証書高2万円分正に相預り候二付)             | 明治16年12月26日 | 静岡県会計主務二等属 小泉武謙   | 治河協力社々長 金原明善殿   |
| 13                                  | 記(金78円内務省より大蔵省出納局を経て回達相成候二付)       | 明治17年1月14日  | 静岡県会計課長二等属 小泉武謙   | 豊田郡中野町村治河協力社 御中 |
| 12                                  | 証(金禄公債証書高3万6780円正に相預り候二付)          | 明治17年1月28日  | 静岡県会計主務二等属 小泉武謙   | 協力社長 金原明善殿      |
| 24                                  | 記(七分利金禄公債証書8万4880円分御預公債証書相違無御座候二付) | 明治17年5月12日  | 治河協力社社員 金原明徳      | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 25                                  | 証(金禄公債証書県庁御預分1250円相違無御座候二付)        | 明治17年5月12日  | 治河協力社社員 金原明徳      | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 36                                  | 証(金禄公債証書1250円分13枚県庁御預相違無御座候二付)     | 明治17年11月12日 | 長上郡安間村金原明善代理 金原幸平 | 静岡県会計課公債係 御中    |
| 50                                  | 証(金禄公債証書1万2370円分正に相預り候二付)          | 明治18年3月13日  | 会計主務静岡県三等属 小泉武謙   | 金原明善殿           |
| 【備考】「事務書類」をもとに筆者作成。額面および数量は、原史料のまま。 |                                    |             |                   |                 |

に治河協力社と静岡県会計課との間で七分利付の金禄公債をめぐって度々やり取りがなされていたことが分かった（表4）。例えば、次のような史料である（句読点は引用者、以下同じ）。

証

金禄公債証書

一高貳万円

内

五百円券 三拾三枚

三百円券 貳 枚

百円 券 貳拾六枚

五拾円券 五 枚

貳拾五円券 貳 枚

合計六拾八枚

右正ニ相預り候、後日受取方申出候節ハ此証書持参引換可相渡候也

明治十六年十二月廿六日

静岡県会計主務二等属小泉武謙 [印]

治河協力社々長

金原明善殿

右証書十八年三月官金出納之節公債掛江返上之事

上の史料によれば、1883年（明治16）12月26日に静岡県会計課が明善所有の金禄公債証書計68枚（2万円分）を預かったことがわかる。なお文末には、治河協力社側の記録として「右証書十八年三月官金出納之節公債掛江返上之事」との記載があり、上記の証書が1885年（明治18）3月に官金を出納した際に会計課の公債係へと返上されたことがうかがえる。

この史料から分かることは、明善が自身の所有する金禄公債を静岡県庁に預けていたという事実である。当時明善は、大量の金禄公債を所有していた。1881年（明治14）10月に明善が静岡県令大迫貞清に宛てて提出した治河協力社の「資金明細書」で、「増殖方法ノ儀ハ第一項金拾五万四千二百八拾円余ハ漸次公債証書ヲ買収シ御庁之御管理相願候積リ」と述べていることから、明善が金禄公債を買い入れることで同社の資産を増殖させようとしていたことが分かる<sup>18</sup>。上に示した史料以外にも、明善が静岡県に金禄公債を預けたことがわかる史料は複数確認でき、なかには金禄公債を所持したことで発生した金であろうか、内務省から大蔵省出納局を経て金78円が「回達」されたことを伝えるものもある（表3の14）。明善は、大量の金禄公債を所有しながら、治河協力社の資産増殖に意を用いていたのである。

このように、明善は、治河協力社の資本を増殖させる目的で、大量の金禄公債を取得していた。士族授産をめぐる研究史のなかでも、金禄公債が企業の資本として転化されていた事例はしばしば確認されており<sup>19</sup>、今回確認した治河協力社のケースもそれに類するものと考えられる。なお、明善が金禄公債を取得していた事実については『金原明善』でも触れられているが、明善が具体的に誰から、いかなる経緯で金禄公債を購入していたのかについては検討されていない。今後は、当時明善の周囲にいた旧士族たち<sup>20</sup>と明善との関係を丁寧に見直すと同時に他の一次史料と突き合わせながら、公債取得のプロセスを明らかにしていく必要がある。

#### 4. 明治10年代後半の明善のネットワーク

「事務書類」からは、明治10年代後半における明善の様々な人的ネットワークの位相が確認できる。まずは、次の史料を見て欲しい。

証

一 金壱万円也

右金額預り置候処実正也、御入用之節者何時成共此証引換御渡し可申候也

三井物産会社 [印]

明治十六年第七月二十三日

元締 馬越恭平 [印]

三井養之助 [印]

治河協力社々長

金原明善殿

史料によると、1883年（明治16）7月23日に明善が三井物産会社に金1万円を預けていたことが分かる。明善が三井物産会社に金を預けた背景については、現時点では定かではない。だが、ここで注目しておきたいのは、金銭のやり取りの内実もさることながら、明治16年の時点で治河協力社が三井物産会社と取引関係にあったという事実である。この関係は、あるいは明善と馬越恭平・三井養之助（高明）との人的ネットワークにもとづいて構築されたものかもしれない。このうち、三井養之助との交流については、現時点では詳らかにし得ないが、明善と馬越の交流については、他の史料でも確認することができる。明善が明治12年～14年の間に作成したと思しき「雑記帳」には、馬越が伊藤博文や松方正義ら有力政治家とともに椎茸の送り先の一つに数えられていることから<sup>21</sup>、金銭のやり取りがなされる明治16年より前から明善と馬越は関係があったと推察される。

また、治河協力社と三井物産会社とのやり取りはこればかりではなかった。「事務書類」には、1884年（明治17）3月10日の日付けで当時まだ官営だった三池鉱山局から治河協力社社長の明善に対し、治河協力社で働く小林八郎という人物を「当局ニ於テ取調」べたいので「借用致度」い旨を申し入れる文書の写しが書き残されている（表3の22）<sup>22</sup>。

ここで名前が挙がっている小林八郎は、山口県出身の旧士族で、工部大学校を卒業したあと1880年（明治13）に治河協力社に入社し、明善の援助を受けて西洋に留学した経験をもつ人物である。治河協力社への入社にあたっては、明善が松方や吉井友実、大鳥圭介らとの人脈を通じて招き入れた。翌84年（明治17）には、治河協力社を退社して内務省土木局に入省している<sup>23</sup>。内務省に入ったあと、小林は着実に内務官僚としてのキャリアを重ねていき、1897年（明治30）12月には土木監督署技師正六位勲六等のち高等官三等<sup>24</sup>、1900年（明治33）には高等官二等に叙され<sup>25</sup>、1910年（明治40）2月に病気を理由に依願退職している<sup>26</sup>。



三池鉱山局側が小林を取調べようとした理由は定かでない。小林に工部大学校出身というキャリアに加え留学経験もあることから、当時有能な人材を確保していた三井物産会社の意向を反映して三池鉱山局側が招き入れようとしたか。あるいは明善が、治河協力社解散後の小林の再就職先として三池鉱山局を選定し、交渉した過程でのやり取りだったかもしれない。いずれにしても「事務書類」に収録された記事からは、明治16～17年にかけて治河協力社（明善）が三井物産・三池鉱山局と、巨額の金が動く取引や社員の移動を伴うやり取りを展開していたことが分かるのである。治河協力社の研究史において、同社が三井物産会社や三池鉱山局と関係性を有していた事実が指摘されたことはなく、今後治河協力社の性格や歴史的 position を再考していくうえでも重要な論点になると指摘しておきたい。

当該期の明善のネットワークは、別の史料からもうかがえる。表5は、1883年（明治16）12月に明善が作成した、恐らくは歳暮であろう芋の贈答先（人名・住所）と大きさ、およびその個数をまとめたものである。この表をみると、合計48名に宛てて大芋1015個、小芋105個が贈られようとしていたことが分かる。史料中には、「右之通乍御手数夫々御配賦方御依頼申上候」とあり、明善が誰かに芋の発送を「依頼」している様子がうかがえるが、明善が具体的に誰に「依頼」したかについては、「事務書類」には記されていないため分からない。だが、1885年（明治18）11月11日に明善が義弟であり治河協力社社員だった金原幸平に送った書簡のなかで、明善が幸平に「先年の振合」で里芋の発送を依頼していることから類推するに、芋の発送に従事したのは金原幸平と、金原家の番頭を務めていた高柳弥平の二人だったと考えられる<sup>27</sup>。

表に注目すると、宛先の大多数は政府関係者だったことが分かる。なかには、明治新政府で太政大臣を務めた三条実美（21）や右大臣を務めた岩倉具視（26）、大久保利通亡き後の明治政府で実力を発揮した伊藤博文（34）など、明治政府内の実力者たちの名前が複数散見される。そのなかで最も個数が多いのは、旧幕臣で当時宮内省に出仕していた川村正平で、大芋150頭と小芋60頭を贈るよう指示されている<sup>28</sup>。川村正平は、武蔵国多摩郡上長房村の小仏関所の生まれで、同関所番見習を勤めたあと一橋家の家臣となり、徳川慶喜の側近として周旋活動に参画、明治改元後は内務省・太政官等の官僚として働いた人物である<sup>29</sup>。1887年（明治20）に明善が従五位を返上しようとした際には、土方久元とともに明善の願いが達せられるように尽力した人物でもあった<sup>30</sup>。川村だけ桁違いに個数が多いのは、川村の寄留先である二条家の面々に対しても川村を介して芋を贈ろうとしたからであろうか。

表5 芋贈答先及び種類・個数一覧

| No. | 住所                | 氏名    | 個数             | 備考               |
|-----|-------------------|-------|----------------|------------------|
| 1   | 東京駿河台北甲賀町拾六番地     | 土方久元  | 大芋30頭          | 右欄に「(大芋)25頭」と記載。 |
| 2   | 同駿河台東紅橋町貳番地       | 大塚謙三郎 | 大芋15頭          |                  |
| 3   | 同飯田町六丁目廿壱番地       | 山田顯義  | 大芋15頭          |                  |
| 4   | 同飯田町壱丁目壱番地        | 大隈重信  | 大芋15頭          |                  |
| 5   | 同小川町今川小路貳丁目七番地    | 桜井能監  | 大芋30頭・小芋25頭    |                  |
| 6   | 同神田錦町壱丁目貳番地       | 徳大寺実則 | 大芋15頭          |                  |
| 7   | 同神田中猿楽町十七番地       | 福永信治  | 大芋15頭          |                  |
| 8   | 同神田猿楽町壱丁目六番地      | 山崎直胤  | 大芋15頭          |                  |
| 9   | 同麹町平川丁五丁目十八番地     | 杉孫七郎  | 大芋15頭          |                  |
| 10  | 同牛込築土前町十六番地二條殿御邸内 | 川村正平  | 大芋150頭・小芋60頭   |                  |
| 11  | 同牛込弁天町七十六番地       | 城多董   | 大芋15頭          |                  |
| 12  | 同牛込南山伏町壱番地        | 佐伯惟馨  | 大芋15頭          |                  |
| 13  | 同本郷春木町貳丁目五十四番地    | 男谷忠友  | 大芋15頭          |                  |
| 14  | 同本郷区森川町壱番地        | 高橋有方  | 大芋20頭          |                  |
| 15  | 同下六番町五十七番地        | 金井之恭  | 大芋15頭          |                  |
| 16  | 同番町法服坂上           | 郷純造   | 大芋15頭          |                  |
| 17  | 同日本橋区村松町廿四番地      | 林厚德   | 大芋15頭          |                  |
| 18  | 同三十間堀三丁目壱番地       | 高石辰吉  | 大芋30頭・小芋20頭    |                  |
| 19  | 同小細町四丁目八番地        | 安田善次郎 | 大芋15頭          |                  |
| 20  | 同裏霞が関             | 大久保利和 | 大芋15頭          |                  |
| 21  | 同永田町壱丁目貳番地        | 三條殿様  | 大芋15頭          |                  |
| 22  | 同永田町貳丁目十六番地       | 有栖川宮  | 大芋15頭          |                  |
| 23  | 同永田町貳丁目十五番地       | 吉井友実  | 大芋15頭          |                  |
| 24  | 同永田町貳丁目十四番地       | 高崎正風  | 大芋15頭          |                  |
| 25  | 同永田町貳丁目廿五六七番地     | 前嶋密   | 大芋15頭          |                  |
| 26  | 同宝田町三番地           | 岩倉殿   | 大芋15頭          |                  |
| 27  | 同赤坂溜池コ火南坂町壱番地     | 佐々木高行 | 大芋25頭          |                  |
| 28  | 同溜池霊南坂町七番地        | 中村孝禧  | 大芋15頭          |                  |
| 29  | 同赤坂田町三丁目十四番地      | 西村捨三  | 大芋25頭          |                  |
| 30  | 牛込区上宮比町五番地        | 衣笠豪谷  | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
| 31  | 同三田町三丁目十一番地       | 松方正義  | 大芋15頭          |                  |
| 32  | 同四ツ谷仲町三丁目十六番地     | 山岡鉄太郎 | 大芋15頭          |                  |
| 33  | 同麻布狸穴町五十八番地       | 林友幸   | 大芋25頭          |                  |
| 34  | 同芝区高輪南町三十六番地      | 伊藤博文  | 大芋15頭          |                  |
| 35  | 同高縄町四番地九鬼隆一様方     | 前田正名  | 大芋15頭          |                  |
| 36  | 神田五軒丁十五番地         | 小野正弘  | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
| 37  | 日本橋区通三丁目丸家書店奥     | 早矢仕有的 | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
| 38  | 同高輪北町五十二番地        | 小林秀知  | 大芋25頭          |                  |
| 39  | 同白金猿町六十七番地        | 寺嶋宗則  | 大芋15頭          |                  |
| 40  | 同白金丹波町五番地         | 石井省一郎 | 大芋25頭          |                  |
| 41  | 同白金村五百廿三番地        | 大鳥圭介  | 大芋15頭          |                  |
| 42  | 同北豊嶋郡金杉村貳百廿貳番地    | 古市公威  | 大芋15頭          |                  |
| 43  | 飯田町三丁目十三番地        | 奈良原繁  | 大芋20頭          | 欄外に記載。           |
| 44  | 駒込東片町百三十七番地       | 南市郎平  | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
| 45  | 同白金丹波町五番地         | 宇佐美房輝 | 大芋25頭          |                  |
| 46  | 同本所柳原町壱丁目         | 清水誠   | 大芋15頭          |                  |
| 47  | 駿河台袋町九番地          | 櫻井勉   | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
| 48  | 飯倉狸穴町四番地          | 川村純義  | 大芋15頭          | 欄外に記載。           |
|     | 計                 | 48口   | 大芋1015頭・小芋105頭 |                  |

【備考】「事務書類」(表3の40)をもとに筆者作成。

ちなみに川村は、「事務書類」の後半に記された「有志者寄附」（表3の53）によって、金70円を治河協力社に寄付していることがわかっている。

次いで多いのは桜井能監の大芋30頭と小芋25頭、以下高石辰吉の大芋30頭と小芋20頭とつづく。川村に次いで多くの芋を贈るよう指示されている桜井能監は、江戸後期の俳人で「天保の三大俳家」の一人である桜井梅室の息子であり、明治政府では宮内省に出仕していた人物である。桜井も川村と同様、1887年（明治20）に金原が従五位の位記を返上しようとした際、土方久元や川村正平とともに宮内省の側から明善の願いを成就させようと尽力した人物であった。

明善が芋を贈ろうとした人物を細かく見ていくと、内務省や工部省、そして宮内省の政治家や官僚が多く見られることがわかる。内務省関係では、1883年（明治16）当時内務卿を務めていた山田顕義（3）を筆頭に、初代土木局長を務めた石井省一郎（40）や日本の土木工学、土木行政の近代化に尽力した古市公威（42）などの名前が見受けられる。工部省関係では、明治16年時に工部卿を務めていた佐々木高行（27）を筆頭に、三池炭鉱の経営に関与した小林秀知（38）や初代工部大学校長を務めた大鳥圭介（41）などの名前がある。こうした内務・工部省関係者、さらには大蔵卿を務めていた松方正義（31）や『興業意見』を著した前田正名（35）といった大蔵省関係者に芋を贈るよう企図された背景には、この三省が天竜川治水事業を進める上で密接に関わる機関だったからであろう。明善は、芋という農産物を贈ることを通して、内務・工部・大蔵省の要人たちとの関係性を維持しようとしていたことが分かる。

なお、内務・工部・大蔵の三省に加えて、宮内省関係者にも複数贈られようとしていたことは注目してよい。具体的には、当時宮内卿を務めていた徳大寺実則（6）をはじめとして、宮中保守派の主要人物であった土方久元（1）や吉井友実（23）の面々である。このうち、土方と吉井、さらに御歌所初代所長を務めることになる高崎正風（24）と先述した佐々木の4名は、明治10年代初頭に天皇親政運動を展開したグループであった。明善もまた、1873年（明治6）に火災で焼失した皇居の再建費用を献納しようとして、1879年（明治12）9月13日に「同志」とともに「皇居御建築相成度並献納金之儀ニ付懇願書」<sup>31</sup>を静岡県に提出しているが、この動きも佐々木らによる天皇親政運動に連動したものと考えられる。明治10年代における明善の人的ネットワーク、さらに明善の思想形成のプロセスを考える上でも、内務・工部・大蔵の三省に加えて宮内省、とりわけ宮中保守派の面々にも芋が贈られようと

していた事実は見逃せないのである。

#### 5. むすびにかえて

本稿では、金原家文書に含まれている治河協力社に関する歴史資料の一つである「事務書類」を手がかりにして、治河協力社が取り扱っていた「事務」の内実を考察した。その結果、金禄公債をめぐる明善と静岡県とのやり取りの軌跡や、1883年（明治16）12月に明善が政府関係者を中心に大芋・小芋を贈ろうとしていた痕跡などが明らかになった。本研究によって、金禄公債証書が治河協力社の資産として大量に取得・保有されていたことや、明善の人的ネットワークの具体的な位相など、これまでの研究史では限定的に触れられるか、あるいは全く触れられることのなかった諸点の具体像が明らかになったのである。

今回分析した「事務書類」には、本稿で取り上げた記事のほかにも寺田彦八郎や秋鹿邦三郎、木呂子直次郎といった治河協力社で働いていた社員たちの動向がうかがえる史料が多数含まれており、同史料は治河協力社の歴史的位置を検討する上で重要な手がかりとなることが分かった。この〈発見〉は、金原家文書という巨大な史料群を整理し、その結果抽出した一次史料を分析する過程でたどり着いたものであり、改めて史料保存（アーカイブズ）の意義を確認することができよう。今後は、今回の基礎的考察によって明らかになった事柄と、金原家文書にある他の治河協力社にまつわる史料とを照らし合わせながら、治河協力社の全体像を描き出し、その上で、日本近代史における同社の歴史的位置づけを試みる必要がある。

一次史料による新たな治河協力社の研究は、今まさに、緒についたばかりである。

#### [付記]

本稿は、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団の研究助成による成果の一部である。

表3 「事務書類」内容一覧

| No. | 内容                                   | 年代              | 作成                   | 宛所                           | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                               | 備考                          |
|-----|--------------------------------------|-----------------|----------------------|------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 1   | 地所貸渡約定書                              | 明治16年<br>5月29日  | 遠江国豊田郡駒場村地主<br>喜多野武平 | 治河協力社々長<br>金原明善殿             | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 戸長代理用係坂口七次郎の奥印あり。           |
| 2   | [通知書]<br>(土木生徒秋鹿邦三郎儀解備之上<br>帰社為致候二付) | 明治16年<br>10月22日 | 土木局長<br>石井大記<br>官 御印 | 協力社々長 金原明善殿                  | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                             |
| 3   | [丙土第77号]                             | 明治16年<br>10月30日 | 長野県                  | 静岡県下<br>遠江国豊田郡中ノ町<br>治河協力社御中 | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                  | 長野県公文書の写し。天竜川量水取扱人給料請払書を記載。 |
| 4   | 治河協力社製図場図面                           | —               | —                    | —                            | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                  |                             |
| 5   | 記(七分利金禄公債証書額面2万5980円也)               | 明治16年<br>11月15日 | 治河協力社社長<br>金原明善      | 静岡県会計課公債係 御中                 |     | <p>記</p> <p>一 七分利金禄公債証書額面貳萬五千九百八拾円也 但三百三拾枚</p> <p>内訳</p> <p>五百円券 三拾枚</p> <p>三百円券 九枚</p> <p>百円 券 九拾五枚</p> <p>五拾円券 九枚</p> <p>貳拾五円券 四枚</p> <p>拾円 券 貳百貳拾三枚</p> <p>〃</p> <p>右之通二御座候也</p> <p>治河協力社</p> <p>明治十六年十一月十五日 社長 金原明善 印</p> <p>静岡県会計課</p> <p>公債係</p> <p>御中</p> |                             |

| No. | 内容                                                         | 年代                  | 作成                          | 宛所                       | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考    |
|-----|------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------------|--------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 6   | 記（七分利<br>金禄公債証<br>書額面2万<br>8100円県庁<br>御預分相違<br>無御座候二<br>付） | 明治16年<br>11月15日     | 治河協力<br>社社長<br>金原明善         | 静岡県会<br>計課公債<br>係 御中     |     | <p>記</p> <p>一 七分利金禄公債証書額面貳萬八千百円也 但百貳拾七枚</p> <p>内訳</p> <p>五百円券 貳拾四枚</p> <p>号番明細ニ記入致候事</p> <p>三百円券 四拾六枚</p> <p>右同断記入致候事</p> <p>百円券 拾六枚</p> <p>右同断</p> <p>五拾円券 五枚</p> <p>右同断</p> <p>貳拾五円券 六枚</p> <p>前同断明細記入致候事</p> <p>拾円券 三拾枚</p> <p>前同断</p> <p>ㄥ</p> <p>右者県庁御預分相違無御座候也</p> <p>明治十六年十一月十五日</p> <p>静岡県会計課<br/>公債係<br/>御中</p> <p>治河協力社<br/>社長 金原明善 印</p> |       |
| 7   | 記（七分利<br>金禄公債証<br>書額面1250<br>円県庁御預<br>分相違無御<br>座候二付）       | 明治16年<br>11月15日     | 遠江国長<br>上郡安間<br>村 金原<br>明善  | 静岡県会<br>計課公債<br>係 御中     |     | <p>記</p> <p>一 七分利金禄公債証書額面千貳百五拾円也 但拾三枚</p> <p>内訳</p> <p>百円券 拾貳枚</p> <p>記番号明細記入致候事</p> <p>五拾円券 壹枚</p> <p>丙ゐ号 七六〇四</p> <p>右者県庁御預分相違無御座候也</p> <p>明治十六年十一月十五日</p> <p>静岡県会計課<br/>公債係<br/>御中</p> <p>遠江国長上郡安間村<br/>金原明善 印</p>                                                                                                                               |       |
| 8   | 証（金1万円<br>御預り実正<br>二付）                                     | 明治16年<br>第7月23<br>日 | 三井物産<br>会社元締<br>馬越恭平<br>外1名 | 治河協力<br>社々長<br>金原明善<br>殿 |     | <p>証</p> <p>一 金壹万円也</p> <p>右金額預り置候処実正也、御入用之節者何時成共此証引換御渡し可申候也</p> <p>明治十六年第七月二十三日</p> <p>三井物産会社 印<br/>元締 馬越恭平 印<br/>三井養之助 印</p> <p>治河協力社々長<br/>金原明善殿</p>                                                                                                                                                                                             |       |
| 9   | [勸第365<br>号]                                               | 明治16年<br>11月14日     | 豊田山名<br>郡役所                 | 豊田郡中<br>ノ町村戸<br>長役場中     | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 雛形あり。 |

| No. | 内容                       | 年代                    | 作成              | 宛所               | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考 |
|-----|--------------------------|-----------------------|-----------------|------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 10  | [親第885号]                 | [明治]<br>16年12月<br>15日 |                 | 豊田郡中ノ町村戸長役場中     |     | <p>勸第八百八十五号</p> <p>其村ニ係ル（渡舟橋梁）賃請求スルケ所及御許可ニテ賃銭請求候向取纏之儀勸第三百五十六号ヲ以相違置候处于今差出無之差■候条此達披見次第■■取調差出べし、此段再度相違候也、</p> <p>十六年十二月十五日</p> <p>磐田豊田山名郡役所</p> <p>豊田郡仲ノ町村<br/>戸長役場中</p>                                                                                                                                                                 |    |
| 11  | [豊田郡中野町村源平新田間天竜川橋梁の賃料書上] | 明治16年<br>12月24日       | 治河協力社々長<br>金原明善 | 中野町村戸長 御中        |     | <p>豊田郡中野町村源平新田間天竜川</p> <p>架橋 明治七年二月十七日許可</p> <p>賃銭 歩行杵人 金九厘</p> <p>長棒駕籠杵挺 金三銭五厘</p> <p>引戸駕籠杵挺 金三銭</p> <p>山臺駕籠杵挺 金貳銭</p> <p>両掛分椅杵所 金九厘</p> <p>大長持杵棹 金貳銭六厘</p> <p>小長持杵棹差樽杵荷 金壹銭六厘</p> <p>人力車杵輛 金貳銭壹厘</p> <p>牛馬杵匹 金三銭</p> <p>馬車杵輛 金八銭五厘</p> <p>ノ</p> <p>右之通御座候也</p> <p>治河協力社々長</p> <p>明治十六年十二月廿四日</p> <p>金原明善 印</p> <p>中野町村<br/>戸長御中</p> |    |
| 12  | 証（金禄公債証書高2万円分正に相預り候二付）   | 明治16年<br>12月26日       | 静岡県会計主務二等属 小泉武謙 | 治河協力社々長<br>金原明善殿 |     | <p>証</p> <p>金禄公債証書 治河協力社長</p> <p>一高貳万円 金原明善所有</p> <p>内</p> <p>五百円券 三拾三枚</p> <p>三百円券 貳枚</p> <p>百円 券 貳拾六枚</p> <p>五拾円券 五枚</p> <p>貳拾五円券 貳枚</p> <p>合計六拾八枚</p> <p>右正ニ相預り候、後日受取方申出候節ハ此証書持参引換可相渡候也、</p> <p>明治十六年十二月廿六日 静岡県会計主務二等属小泉武謙 御印</p> <p>治河協力社々長<br/>金原明善殿</p> <p>右証書十八年三月官金出納之節公債掛江返上之事</p>                                           |    |

| No. | 内容                               | 年代             | 作成              | 宛所                  | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                           | 備考               |
|-----|----------------------------------|----------------|-----------------|---------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 13  | 証（金禄公債証券高3万6780円正に相預り候二付）        | 明治17年<br>1月28日 | 静岡県会計主務二等属 小泉武謙 | 協力社長<br>金原明善殿       |     | <p>証<br/>丙号<br/>金禄公債証券<br/>一券高三万六千七百八拾円</p> <p>内<br/>五百円 三拾枚<br/>三百円 拾枚<br/>百 円 百五拾枚<br/>五拾円 拾壹枚<br/>廿五円 八枚<br/>拾 円 貳百貳拾三枚</p> <p>右正二相預り候、後日受取方申出候節ハ此証書持参引換可相渡候也</p> <p>明治十七年一月廿八日 静岡県会計主務二等属小泉武謙 御印</p> <p>協力社長<br/>金原明善殿</p> <p>右証書十八年三月官金出納之節公債掛江返納之事</p> |                  |
| 14  | 記（金78円内務省より大蔵省出納局を経て回達相成候二付）     | 明治17年<br>1月14日 | 静岡県会計課長二等属 小泉武謙 | 豊田郡中野町村<br>治河協力社 御中 |     | <p>記<br/>一金七拾八円<br/>但遠江国豊田郡中野町村治河協力社渡<br/>右金額内務省ヨリ大蔵省出納局ヲ經テ回達相成候間受取方御申出可相成候、<br/>此段及御通知候也</p> <p>明治十七年一月十四日 静岡県会計課長<br/>二等属小泉武謙 御印</p> <p>豊田郡中野町村<br/>治河協力社<br/>御中</p>                                                                                       |                  |
| 15  | 辞表                               | 明治17年<br>1月14日 | 熊谷三郎<br>馬（印）    | 治河協力社々長<br>金原明善殿    | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |
| 16  | [辞令書]<br>（幹事兼庶務係長熊谷三郎馬依御申出解任候二付） | 明治17年<br>1月15日 | 治河協力社長 金原明善     | 幹事兼庶務係長<br>熊谷三郎馬    | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |
| 17  | [辞令書]<br>（当社修築係附属員に相任候二付）        | 明治17年<br>1月    | 治河協力社長 金原明善     | 木呂子直次郎殿             | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                              | 月給として金6円支給する旨記載。 |



| No. | 内容                                                        | 年代             | 作成             | 宛所           | 資料集 | 翻刻                                                                                                        | 備考                                                                          |
|-----|-----------------------------------------------------------|----------------|----------------|--------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 18  | [本年一月廿九日附達量水標取扱心得書第一項中筆算紙料トアルハ雑費ノ誤ニ候旨内務書記官ヨリ通報有之候条此旨相違候事] | 明治17年<br>2月8日  | 静岡県            | 治河協力社        |     | <p>治河協力社</p> <p>本年一月廿九日附無号達量水標取扱心得書第一項中筆写紙料トアルハ雑費ノ誤ニ候旨内務書記官ヨリ通報有之候条此旨相違候事</p> <p>明治十七年二月八日</p> <p>静岡県</p> |                                                                             |
| 19  | [太政官布達第三号]                                                | 明治17年<br>2月15日 | [太政大臣三条実美外1名]  | -            | ○   |                                                                                                           | 明治15年2月の第3号布達の改正（民有林の中水源を養い土砂を止める機能を有する森林の伐採等を伴う事業については停止させることがある旨）を布告する内容。 |
| 20  | [農商務省第三号]                                                 | 明治17年<br>3月1日  | [農商務卿 西郷従道]    | 府県           | ○   |                                                                                                           | 明治17年2月第3号を以て明治15年2月第3号布達改正之儀布達に伴って明治15年2月当省第3号布達も改正する旨。                    |
| 21  | [太政官第三号]                                                  | 明治15年<br>2月1日  | [太政大臣 三条実美外1名] | 府県           | ○   |                                                                                                           | 明治15年2月13日発出の達（水源涵養ほか国土保安に関係ある箇所を伐木しようとするものについては、その都度実地検分して処分する旨）の写し。       |
| 22  | [乙第215号]                                                  | [明治]17年3月10日   | 三池鉱山局          | 治河協力社長 金原明善殿 | ○   |                                                                                                           | 小林八郎の「取調」の件について。                                                            |

| No. | 内容                                                    | 年代             | 作成                                          | 宛所                   | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                           | 備考                                                    |
|-----|-------------------------------------------------------|----------------|---------------------------------------------|----------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 23  | [書状]                                                  | 明治17年<br>3月18日 | 治河協力<br>社々長金<br>原明善不<br>在ニ付同<br>社々員<br>金原幸平 | 三池鉱山<br>局 御中         | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                       |
| 24  | 辞職願（私<br>儀病氣ニ<br>付）                                   | 明治17年<br>3月15日 | 天龍川河<br>身改修事<br>務取締<br>川村矯一<br>郎            | 静岡県令<br>奈良原繁<br>殿    | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                              | 明治17年3月24<br>日付静岡県発<br>出文書（川村の<br>辞職願を聞き届<br>けた旨）の写し。 |
| 25  | 記（七分利<br>金禄公債証<br>書8万4880円<br>分御預公債<br>証書相違御<br>座無ニ付） | 明治17年<br>5月12日 | 治河協力<br>社社員<br>金原明德                         | 静岡県会<br>計課公債<br>係 御中 |     | <p>記</p> <p>一七分利金禄公債証書額面八万四千八百八拾円也 但六百三拾五枚</p> <p>内</p> <p>額面 五百円 八拾七枚</p> <p>同 三百円 五拾八枚</p> <p>同 百 円 貳百枚</p> <p>同 五拾円 貳拾壹枚</p> <p>同 貳拾五円 拾六枚</p> <p>同 拾円 貳百五拾三枚</p> <p>ノ</p> <p>右之通県庁御預公債証書相違無御座候也</p> <p>明治十七年五月十二日</p> <p>静岡県会計課<br/>公債係御中</p> <p>治河協力社<br/>社員 金原明德 印</p> |                                                       |
| 26  | 記（七分利<br>金禄公債証<br>書県庁御預<br>分1250円相<br>違無御座候<br>ニ付）    | 明治17年<br>5月12日 | 治河協力<br>社社員<br>金原明德                         | 静岡県会<br>計課公債<br>係 御中 |     | <p>記</p> <p>七分利金禄公債証書</p> <p>一額面千貳百五拾円也 但拾三枚</p> <p>内</p> <p>額面 百円 拾貳枚</p> <p>同 五拾円 壹枚</p> <p>ノ</p> <p>右者金原明善所有分県庁御預公債証書相違無御座候也</p> <p>明治十七年五月十二日</p> <p>静岡県会計課<br/>公債係<br/>御中</p> <p>治河協力社<br/>社員 金原明德 印</p>                                                                |                                                       |

| No. | 内容                                                                                 | 年代                  | 作成                | 宛所                                  | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 備考                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------------|-------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 27  | [辞令書]<br>(小林八郎<br>内務省御用<br>掛及び土木<br>局勤務とし<br>て静岡県在<br>勤申付候二<br>付)                  | 明治17年<br>6月3日       | 内務省               | 小林八郎                                | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                         |
| 28  | [第194号]<br>(写)                                                                     | 明治16年<br>11月21日     | 土木局長<br>石井大記<br>官 | 飯塚十三<br>等出仕殿                        | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 工師デ・レーケ<br>の天龍川並びに<br>大井川筋検分出<br>張について。 |
| 29  | 御届(右実<br>印用候二<br>付)                                                                | 明治17年<br>6月20日      | 寺田彦八<br>郎(印)      | 治河協力<br>社 御中                        |     | 御届<br><br>印鑑 [印] [印] 寺田彦八郎<br><br>右実印相用候間此段御届申上候也<br><br>明治十七年六月廿日 寺田彦八郎 [印]<br><br>治河協力社御中                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 「彦八郎」と<br>「寺田」の<br>2種類の朱印あ<br>り。        |
| 30  | 天龍川工事<br>計画中支払<br>金高(金1万<br>3465円87銭2<br>厘)                                        | (明治17<br>年8月8<br>日) | —                 |                                     | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 明治11年7月～<br>明治17年6月。                    |
| 31  | [通達]<br>(天龍川量<br>水標水住日<br>表用紙購求<br>費ほか諸費<br>昨十六年五<br>月ヨリ本年<br>六月迄支払<br>別紙之通二<br>付) | 明治17年<br>9月17日      | 長野県               | 静岡県遠<br>州豊田郡<br>中ノ町<br>治河協力<br>社 御中 |     | 県下天龍川量水標水位日表用紙購求費并備付品修繕其他諸費昨十六年五月ヨリ本年六月迄支払別紙之通有之候、就テハ該費金之義ハ十六年五月ヨリ同年十月迄量水標取扱人月給残額金六円之内ヨリ差継払取計候間此旨通報及ヒ候也<br>明治十七年九月十七日 長野県 御印<br>静岡県遠州豊田郡中ノ町<br>治河協力社<br>御中<br>追テ本費支払残金三円八拾銭三厘ハ返戻可致■■■分之回答相成度候也<br><br>○<br>記<br>一金貳円拾九銭七厘<br>内訳<br>金七拾銭貳厘<br>但水位日表用紙十七年四月ヨリ十八年三月迄<br>十二ヶ月至数三百六拾枚下渡費<br>金五拾銭<br>但上伊那郡宮田村量水標取扱人細田伝弥預リ時計修繕費<br>金四拾貳銭五厘<br>但量水標取扱人備付品下伊那郡役所ヨリ上伊那郡役所江通送費<br>金貳銭五厘<br>但前同断御用提灯文字記入費 |                                         |

| No. | 内容                                                    | 年代                    | 作成                                 | 宛所                                                | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考                                        |
|-----|-------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 32  | [会第887号<br>写]                                         | 明治17年<br>7月21日        | 会計主務<br>長野県三<br>等属 熊<br>倉美稚        | 東京日本<br>橋区檜物<br>町10番<br>地 丸家<br>銀行ニテ<br>金原明善<br>殿 | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 天龍川量水取扱<br>人給料其他諸費<br>として金100円<br>正に領収の旨。 |
| 33  | 治河協力社<br>元資金仕訳<br>書（金17万<br>円也）                       | —                     | —                                  | —                                                 | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                           |
| 34  | [貸付金、<br>地所代金ほ<br>か諸経費書<br>上]（金17<br>万3590円77<br>銭4厘） | —                     | —                                  | —                                                 |     | <p>一金拾七万三千五百九拾円七拾七銭四厘</p> <p>内</p> <p>金六万三千八百四拾壹円八拾六銭五厘      貸付金</p> <p>金貳万六千六百貳拾七円七拾貳銭九厘      地所代金</p> <p>金貳千四百八拾五円拾八銭      家屋并器械</p> <p>金八万六千三百六拾六円      金禄公債証書</p> <p>額面八万四千八百八十円</p> <p>内</p> <p>金五万円也      下付金</p> <p>金貳万千七百七拾五円貳拾壹銭      工費残額</p> <p>金六万六千六百拾四円貳拾六銭      金原明善寄附金</p> <p>金四万八千八百壹円三拾銭四厘      増殖金</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                           |
| 35  | 明治十七年<br>十月廿二日<br>日計表                                 | （明治17<br>年10月22<br>日） | —                                  | —                                                 |     | <p>明治十七年十月廿二日日計表</p> <p>一金拾七万五千七百五拾円八拾貳銭壹厘      六月三十日ヨリ資本高</p> <p>内金七千七百五拾八銭貳厘      七月一日ヨリ十月廿二日迄収入支出計算減</p> <p>引金拾七万四千四拾五円拾三銭九厘</p> <p>内訳</p> <p>金六万七千九百四拾貳円六拾六銭八厘      金禄公債</p> <p>金貳万六千六百貳拾七円七拾貳銭九厘      地所</p> <p>金貳千四百八拾五円拾八銭      家屋并器具</p> <p>金三千八拾円      西遠商会株</p> <p>金五万八千三百四拾三円八拾貳銭壹厘      貸付金</p> <p>金壹万八千八百八拾七円九銭五厘      丸家預ケ金</p> <p>金三千七百九拾円四拾壹銭      無利息貸付</p> <p>金貳千百拾円五拾三銭七厘      小作出納金</p> <p>金三百四拾四円八拾六銭九厘      橋費仮出</p> <p>金七千四百四拾四円三拾三銭五厘      仮出</p> <p>小以金八万九千九百貳拾壹円六銭七厘</p> <p>内</p> <p>金四千三百拾五円三拾五銭      預り金</p> <p>金壹万〇貳百九拾九円      銀行借入</p> <p>金千五拾壹円三拾銭三厘      仮預り金</p> <p>金千百貳拾円六拾四銭四厘      橋銭預り</p> <p>合金壹万六千七百七十八円廿九銭七厘</p> |                                           |
| 36  | 記（8万4880<br>円分県庁御<br>預公債証書<br>相違御座無<br>二付）            | 明治17年<br>11月12日       | 治河協力<br>社社長金<br>原明善代<br>理 金原<br>幸平 | 静岡県会<br>計課公債<br>係 御中                              | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                           |

| No. | 内容                             | 年代              | 作成                         | 宛所            | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                          | 備考 |
|-----|--------------------------------|-----------------|----------------------------|---------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 37  | 記（金禄公債証書1250円分13枚県庁御預相違無御座候二付） | 明治17年<br>11月12日 | 長上郡安間村金原明善代理<br>金原幸平       | 静岡県会計課公債係 御中  |     | <p>記<br/>七分利金禄公債証書<br/>一 額面千貳百五十拾円也 但拾三枚<br/>内<br/>百円券 拾貳枚<br/>五十拾円券 壹枚<br/>右者金原明善所有分県庁御預相違無御座候也<br/>長上郡安間村<br/>明治十七年十一月十二日 金原明善代理 金原幸平 印<br/>静岡県会計課<br/>公債係<br/>御中</p>     |    |
| 38  | [時事新報 817号広報] (写)              | 明治17年<br>11月18日 | 太政大臣<br>三条実美               | —             |     | <p>○時事新報八百十七号公報<br/>太政官達第九十四号<br/>官省院庁府県<br/>凡ソ官有地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在区町村費ノ賦課ニ応セサル儀ト心得ヘシ、此旨相達候事<br/>但道路疏水等ノ為メ該区町村ヘ手当金ヲ給与スルハ各々適宜タルヘシ<br/>明治十七年十一月十八日<br/>太政大臣三条実美</p>       |    |
| 39  | [出頭命令]                         | 明治17年<br>11月21日 | 静岡県                        | 秋鹿邦三郎殿        |     | <p>御用候条本月廿四日午前第十時礼服着用出頭可致候旨相達候也<br/>明治十七年十一月廿一日 静岡県<br/>秋鹿邦三郎殿</p>                                                                                                          |    |
| 40  | 記（大芋発送先及び個数一覧）                 | 明治16年<br>12月    | 遠州天竜橋西側中野町村堤上治河協力社<br>金原明善 | —             |     | (表5参照)                                                                                                                                                                      |    |
| 41  | [治河協力社元資金仕訳書]（明治11年度～17年度分）    | 明治18年<br>1月22日  | 治河協力社々長<br>金原明善            | 静岡県令<br>関口隆吉殿 |     | (表6参照)                                                                                                                                                                      |    |
| 42  | 治河協力社出納調（明治11年度～16年度分）         | —               | —                          | —             |     | (表7参照)                                                                                                                                                                      |    |
| 43  | 治河協力社資本官私区分表                   | —               | —                          | —             |     | <p>一金八万八千三百九拾六円拾六錢四厘 官<br/>一金九万五千六百六拾三円拾八錢七厘 社<br/>小計金拾八万四千五拾九円三拾五錢壹厘<br/>内金五万九百九拾九円八錢四厘 諸費<br/>差引残金拾三万三千六拾円貳拾六錢七厘<br/>内訳<br/>金六万三千八百九拾五円五拾四錢 官<br/>金六万九千六百六拾四円七拾貳錢七厘 社</p> |    |

| No. | 内容                                                                                            | 年代             | 作成                                 | 宛所                | 資料集    | 翻刻                                                                                                                                  | 備考              |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------|-------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 44  | 治河協力社<br>資本御下附<br>金取調書<br>(明治11年<br>度～14年<br>度)                                               | —              | —                                  | —                 | (下841) |                                                                                                                                     |                 |
| 45  | 治河協力社<br>資本私金取<br>調書(明治<br>11年度～16<br>年度)                                                     | —              | —                                  | —                 | (下841) |                                                                                                                                     |                 |
| 46  | 有志者寄付<br>金(総計金<br>599円94銭6<br>厘)                                                              | —              | —                                  | —                 | ○      |                                                                                                                                     |                 |
| 47  | 材木商会寄<br>附金(総計<br>金2188円32<br>銭)                                                              | —              | —                                  | —                 | ○      |                                                                                                                                     |                 |
| 48  | 御請書(天<br>竜橋代金<br>6290円8銭8<br>厘)                                                               | 明治18年<br>1月25日 | 金原明善                               | 静岡県土<br>木課 御<br>中 | (上690) |                                                                                                                                     |                 |
| 49  | 上申(客年<br>12月16日付<br>を以て追て<br>何分之儀相<br>達する迄從<br>前之通事務<br>取扱候様御<br>達有之候処<br>今般廃止之<br>儀御達二<br>付) | 明治18年<br>3月13日 | 治河協力<br>社々長金<br>原明善代<br>理 金原<br>明德 | 静岡県令<br>関口隆吉<br>殿 | ○      |                                                                                                                                     | 金額を記した別<br>紙あり。 |
| 50  | 証(金禄公<br>債証書1250<br>円分正に預<br>置候二付)                                                            | 明治12年<br>9月16日 | 静岡県会<br>計課                         | —                 |        | 証<br>金禄公債証書<br>一額面千貳百五拾円 金原明善所有<br>内訳<br>百円証書 拾貳枚<br>五拾円証書 壹枚<br>合拾三枚<br>右正二預置候、後日受取方申出候節ハ此証書持参ノ上引換可相渡候也<br>静岡県<br>明治十二年九月十六日 会計課 印 |                 |

| No. | 内容                         | 年代             | 作成                          | 宛所        | 資料集 | 翻刻                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考 |
|-----|----------------------------|----------------|-----------------------------|-----------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 51  | 証（金禄公債証書1万2370円分正に相預り候につき） | 明治18年<br>3月13日 | 会計主務<br>静岡県三<br>等属 小<br>泉武謙 | 金原明善<br>殿 |     | 証<br>丙号金禄公債証書<br>一券高壹万貳千三百七拾円 遠江国長上郡安間村壹番地 金原明善所有<br>内<br>五百円 貳拾枚<br>三百円 三枚<br>百 円 四枚<br>五拾円 壹枚<br>拾 円 百貳枚<br>合百三拾枚<br>右正ニ相預り候、後日受取方申出候節ハ此証書持参引換可相渡候也<br>会計主務<br>明治十八年三月十三日 静岡県二等属小泉武謙 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">官印</span><br>金原明善殿                                                                                                                                          |    |
| 52  | 明治十年橋梁追加費用操換金              | —              | —                           | —         |     | (表8参照)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |
| 53  | 有志者寄附（合計金559円54銭6厘）        | —              | —                           | —         | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
| 54  | 材木商会及漁獵人寄附（合計金2188円32銭）    | —              | —                           | —         |     | 材木商会及漁獵人寄附<br>一 金千七拾八円六拾六銭貳厘<br>内金七百六拾三円九拾壹銭貳厘 材木商<br>金三百拾四円七拾五銭 漁獵人<br>此利六拾四円七拾五銭 十一年度利<br>一 金六拾四円三拾銭七厘 材木商<br>此利壹円九拾貳銭九厘<br>一 金百八円壹銭三厘 全<br>元利合金千三百拾七円六拾三銭壹厘<br>此利七拾九円五銭八厘 十二年度利<br>一 金七拾三円拾貳銭八厘 全<br>此利貳円拾九銭四厘<br>一 金百貳円七拾五銭壹厘 材木商<br>元利合金千五百七拾四円七拾六銭貳厘<br>此利九拾四円四拾八銭六厘 十三年度利<br>一 金六拾七円八拾九銭貳厘 全<br>此利貳円三銭七厘<br>一 金六拾六円七拾七銭壹厘 全<br>元利合金千八百五円九拾四銭八厘<br>此利百八円三拾五銭七厘 十四年度利<br>一 金三拾貳円拾六銭六厘 全<br>此利壹円拾貳銭六厘 |    |

表6 治河協力社元資金仕訳書

| 年度   | 金額               | 収支項目  | 年度          | 金額              | 収支項目 |
|------|------------------|-------|-------------|-----------------|------|
| 11年度 | 金2万3000円         | 下付金   | 14年度        | 金7万1147円17銭4厘   | 下付金  |
|      | 内金1万1958円1銭5厘    | 修築費支払 |             | 金6万5471円30銭5厘   | 社金   |
|      | 残金1万1041円1円98銭5厘 | 官金    |             | 合金13万6618円47銭9厘 |      |
|      | 金6万7548円57銭      | 社金    |             | 内金9992円21銭      | 社費支払 |
|      | 合金7万8590円55銭5厘   |       |             | 残金12万6626円26銭9厘 |      |
|      | 内金3048円99銭4厘     | 社費支払  |             | 内訳              |      |
|      | 残金7万5541円56銭1厘   |       |             | 金6万5943円53銭4厘   | 官金   |
|      | 内                |       |             | 利金2475円3銭5厘     |      |
|      | 金1万613円60銭1厘     |       |             | 金6万682円76銭5厘    | 社金   |
|      | 利金616円71銭4厘      |       |             | 利金4079円68銭7厘    |      |
|      | 金6万4927円96銭      |       | 15年度        | 金6万8418円53銭9厘   | 官金   |
|      | 利金3408円58銭4厘     |       |             | 金6万4777円45銭2厘   | 社金   |
| 12年度 | 金3万4230円31銭5厘    | 下付金   |             | 合金13万3195円99銭1厘 |      |
|      | 内金1万2340円96銭4厘   | 修築費支払 |             | 内金7910円83銭5厘    | 社費支払 |
|      | 残金2万1889円35銭1厘   | 官金    |             | 残金12万5285円15銭6厘 |      |
|      | 金6万8521円92銭3厘    | 社金    |             | 内訳              |      |
|      | 計金9万411円27銭4厘    |       |             | 金6万4354円99銭5厘   | 官金   |
|      | 内金4349円43銭9厘     | 社費支払  |             | 利金3959円82銭1厘    |      |
|      | 残金8万6061円83銭5厘   |       |             | 金6万930円16銭1厘    | 社金   |
|      | 内                |       |             | 利金3749円8銭5厘     |      |
|      | 金2万836円31銭4厘     | 官金    | 16年度        | 金6万8314円81銭6厘   | 官金   |
|      | 利金1301円41銭5厘     |       |             | 金6万4679円24銭6厘   | 社金   |
|      | 金6万5225円52銭1厘    | 社金    |             | 合金13万2994円6銭2厘  |      |
|      | 利金4028円73銭3厘     |       |             | 内金7701円8厘       | 社費支払 |
| 13年度 | 金4万5137円73銭      | 下付金   |             | 残金12万5293円5銭4厘  |      |
|      | 内金2万3525円81銭1厘   | 修築費支払 |             | 内訳              |      |
|      | 残金2万1611円91銭9厘   | 官金    |             | 金6万4359円5銭3厘    | 官金   |
|      | 金6万9388円91銭7厘    | 社金    |             | 利金3648円93銭5厘    |      |
|      | 計金9万1000円83銭6厘   |       |             | 金6万934円1厘       | 社金   |
|      | 内金1万465円76銭7厘    | 社費支払  |             | 利金4118円27銭8厘    |      |
|      | 残金8万535円6銭9厘     |       | 17年度<br>上半期 | 金6万8007円98銭8厘   | 官金   |
|      | 内訳               |       |             | 金6万5052円27銭9厘   | 社金   |
|      | 金1万9126円38銭9厘    | 官金    |             | 合金13万3060円26銭7厘 |      |
|      | 利金2010円78銭5厘     |       |             | 内金8381円28銭5厘    | 社費支払 |
|      | 金6万1408円68銭      | 社金    |             | 残金12万4678円98銭2厘 |      |
|      | 利金3899円20銭9厘     |       |             | 内訳              |      |
| 14年度 | 金7万1147円17銭4厘    | 下付金   |             | 金6万3724円25銭7厘   | 官金   |
|      | 金6万5471円30銭5厘    | 社金    |             | 利金1875円78銭4厘    |      |
|      | 合金13万6618円47銭9厘  |       |             | 金6万954円72銭5厘    | 社金   |
|      | 内金9992円21銭       | 社費支払  |             | 利金2029円99銭2厘    |      |
|      | 残金12万6626円26銭9厘  |       |             | 計金12万8584円75銭8厘 |      |
|      | 内訳               |       |             | 総計金6万5600円4銭1厘  | 官金   |
|      | 金6万5943円53銭4厘    | 官金    |             | 金6万2984円71銭7厘   | 社金   |
|      | 利金2475円3銭5厘      |       |             | 利金2867円9銭5厘     |      |
|      | 金6万682円76銭5厘     | 社金    |             |                 |      |
|      | 利金4079円68銭7厘     |       |             |                 |      |

【備考】表3の41をもとに筆者作成。数値は、原史料のまま。



| 表7 治河協力社出納調                   |                  |                  |                   |                   |             |
|-------------------------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 年度                            | 金額               | 事項               | 年度                | 金額                | 事項          |
| 明治11年度                        | 金5万8033円7銭1厘     | 金原明善差出金          | 明治14年度            | 金12万677円79銭6厘     | 前年度残高       |
|                               | 金1万14円1銭7厘       | 明治7年ヨリ同11年迄資本積立高 |                   | 金5万円              | 河身改修費御下附金   |
|                               | 金2万3000円         | 修築受負金            |                   | 金1万5348円27銭1厘     | 利子          |
|                               | 金4471円10銭7厘      | 利子               |                   | 金1920円24銭1厘       | 諸収入         |
|                               | 金1924円75銭6厘      | 諸収入              |                   | 小計金18万7946円30銭8厘  |             |
|                               | 小計金10万1024円14銭   |                  |                   | 内                 |             |
|                               | 内                |                  |                   | 金196円44銭4厘        | 河身改修費       |
|                               | 金1万1958円1銭5厘     | 修築支払高            |                   | 金1万7218円67銭7厘     | 修築支払高       |
|                               | 金561円66銭6厘       | 貢租並地方諸費          |                   | 金2880円25銭         | 水利生徒内外各国修業費 |
|                               | 金2487円32銭8厘      | 社費               |                   | 金717円87銭2厘        | 貢租並地方諸費     |
| 明治12年度                        | 差引残金8万6017円13銭1厘 |                  | 金6197円64銭4厘       | 社費                |             |
|                               | 内金1万1041円98銭5厘   | 修築金残金            | 金4387円18銭3厘       | 貸金損失              |             |
|                               | 金8万6017円13銭1厘    | 前年度残高            | 差引残金15万6348円23銭8厘 |                   |             |
|                               | 金2万3000円         | 修築受負金            | 明治15年度            | 金15万6348円23銭8厘    | 前年度残高       |
|                               | 金8267円98銭8厘      | 利子               |                   | 金1万7681円44銭1厘     | 利子          |
|                               | 金2115円47銭6厘      | 諸収入              |                   | 金439円76銭4厘        | 諸収入         |
|                               | 内                |                  |                   | 小計金17万4469円44銭3厘  |             |
|                               | 金1万2340円96銭4厘    | 修築支払高            |                   | 内                 |             |
|                               | 金627円42銭7厘       | 貢租並地方諸費          |                   | 金1549円5銭          | 河身改修費       |
|                               | 金3722円1銭2厘       | 社費               |                   | 金2581円60銭         | 水利生徒内外各国修業費 |
| 差引残金10万2710円19銭2厘             |                  | 金733円99銭4厘       |                   | 社費                |             |
| 内金1万659円3銭6厘                  | 修築金残余            | 金1459円94銭1厘      |                   | 貸金損失              |             |
| 明治13年度                        | 金10万2710円19銭2厘   | 前年度残高            |                   | 差引残金16万5098円66銭7厘 |             |
|                               | 金2万3000円         | 修築受負金            | 明治16年度            | 金16万5098円66銭7厘    | 前年度残高       |
|                               | 金1万2080円57銭6厘    | 利子               |                   | 金1万7928円96銭6厘     | 利子          |
|                               | 金1297円5銭7厘       | 諸収入              |                   | 金345円51銭8厘        | 諸収入         |
|                               | 小計金13万9087円82銭5厘 |                  |                   | 小計金18万3373円15銭1厘  |             |
|                               | 内                |                  |                   | 内                 |             |
|                               | 金6568円84銭7厘      | 修築支払高            |                   | 金2416円54銭         | 河身改修費       |
|                               | 金4157円73銭2厘      | 水利生徒内外各国修業費      |                   | 金58円              | 水利生徒修業費     |
|                               | 金809円18銭6厘       | 貢租並地方諸費          |                   | 金610円9厘           | 貢租並地方諸費     |
|                               | 金5497円84銭9厘      | 社費               |                   | 金4616円45銭9厘       | 社費          |
| 金1376円41銭5厘                   | 貸金損失             | 金1939円26銭2厘      |                   | 貸金損失              |             |
|                               | 差引残金12万677円79銭6厘 |                  | 差引残金17万3716円30銭4厘 |                   |             |
|                               |                  |                  | 内                 |                   |             |
|                               |                  |                  | 金8万636円           | 公債証書額面8万4880円     |             |
|                               |                  |                  | 金6万1548円58銭4厘     | 貸附金               |             |
|                               |                  |                  | 内                 |                   |             |
|                               |                  |                  | 金2万1556円17銭1厘     | 第1種               |             |
|                               |                  |                  | 金1万5754円          | 第2種               |             |
|                               |                  |                  | 金3万238円41銭3厘      | 第3種               |             |
|                               |                  |                  | 金2万6627円70銭9厘     | 地所代価              |             |
|                               |                  |                  | 金2485円18銭         | 家産並器械             |             |
| 【備考】表3の42をもとに筆者作成。数値は、原史料のまま。 |                  |                  |                   |                   |             |

表8 橋梁追架費用操換金一覧

|                    |                |          |                |     |
|--------------------|----------------|----------|----------------|-----|
| 明治<br>10<br>年<br>度 | 金額             | 備考       |                |     |
|                    | 金1万2224円38銭6厘  |          |                |     |
|                    | 初金916円82銭9厘    |          |                |     |
|                    | 合金1万3141円21銭5厘 |          |                |     |
|                    | 内金9円34銭1厘      | 此橋賃諸費引去残 |                |     |
| 明治<br>11<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金1万3131円87銭4厘  |          | 金1万2639円50銭2厘  |     |
|                    | 利金984円89銭1厘    |          | 利金947円96銭2厘    |     |
|                    | 合金1万4116円76銭5厘 |          | 合金1万3587円46銭4厘 |     |
|                    | 内金1477円26銭3厘   | 前同断      | 内金1631円87銭2厘   | 前同断 |
| 明治<br>12<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金1万1955円59銭2厘  |          | 金1万979円83銭9厘   |     |
|                    | 利金896円66銭9厘    |          | 利金823円48銭8厘    |     |
|                    | 合金1万2852円26銭1厘 |          | 合金1万1803円32銭7厘 |     |
|                    | 内金1872円42銭2厘   | 前同断      | 内金1910円18銭4厘   | 前同断 |
| 明治<br>13<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金9893円14銭3厘    |          | 金8923円89銭8厘    |     |
|                    | 利金741円98銭6厘    |          | 利金669円29銭2厘    |     |
|                    | 合金1万635円12銭9厘  |          | 合金9593円19銭     |     |
|                    | 内金1711円23銭1厘   | 前同断      | 内金849円72銭4厘    | 前同断 |
| 明治<br>14<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金8743円46銭6厘    |          | 金7467円43銭1厘    |     |
|                    | 利金655円76銭      |          | 利金560円5銭7厘     |     |
|                    | 合金9399円22銭6厘   |          | 合金8027円48銭8厘   |     |
|                    | 内金1931円79銭5厘   | 前同断      | 内金1441円77銭8厘   | 前同断 |
| 明治<br>15<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金6585円71銭      |          | 金5981円21銭8厘    |     |
|                    | 利金493円92銭8厘    |          | 利金448円59銭1厘    |     |
|                    | 合金7079円63銭8厘   |          | 外金1068円8銭9厘    | 借入  |
|                    | 内金1098円42銭     | 前同断      | 合金7497円89銭8厘   |     |
| 明治<br>16<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金7497円89銭8厘    |          | 金1万1619円6銭3厘   |     |
|                    | 利金562円34銭2厘    |          | 利金871円43銭      |     |
|                    | 外金3558円82銭3厘   | 借入       | 合金1万2490円49銭3厘 |     |
|                    | 合金1万1619円6銭3厘  |          | 内金228円40銭9厘    | 消却  |
| 明治<br>17<br>年<br>度 | 金額【6月計算】       | 備考       | 金額【12月計算】      | 備考  |
|                    | 金1万2262円8銭4厘   |          |                |     |
|                    | 利金919円65銭6厘    |          |                |     |
|                    | 合金1万3181円74銭   |          |                |     |
| 内金1725円56銭9厘       | 消却             |          |                |     |
| 差引残金1万1456円17銭1厘   |                |          |                |     |

【備考】表3の52をもとに筆者作成。数値は、原史料のまま。

註

- <sup>1</sup> 金原明善は、遠江国長上郡安間村（現静岡県浜松市）の出身。幕末に居村の名主役に就任した頃から、明善は天竜川の治水に熱心に取り組んだ。治水の他にも、天竜川の水源涵養を企図した植林や製材業、銀行業といった様々な企業の創立と運営に携わる一方で、刑期を終えた人びとの社会復帰を支援する更生保護事業など社会事業にも多数携わった。こうした事績が評価されて、戦前から「偉人」として顕彰された人物である。
- <sup>2</sup> 碧瑠璃園『金原明善翁』（興風書院、1890年）、水野定治『天龍翁金原明善』（積文館、1917年）、鈴木要太郎『金原明善翁と其思想』（金原翁伝記刊行会、1937年）、小野田龍彦『国土を培ふもの 金原明善一代記』（平凡社、1942年）、宮崎安右衛門「金原明善翁」（『大法輪』第22編第12号、1955年）、村上龍太郎「国土開発の先駆者 金原明善翁」（国土計画協会編『国土・総合開発・計画調査』第6編第6号、1956年）など。
- <sup>3</sup> 金原治山治水財団編『金原明善』（金原治山治水財団、1968年）。
- <sup>4</sup> 註3前掲書、310頁。
- <sup>5</sup> 主なものとして、以下の成果がある。老川慶喜「金原明善 その虚像と実像 天竜運輸会社の経営分析を通して」（『季刊輸送展望』第200号、1986年）、永野弥三雄「金原明善の北海道殖民農場について」（『常葉学園浜松大学研究論集』第4号、1992年）、町村敬志『開発主義の構造と心性 戦後日本がダムでみた夢と現実』（御茶の水書房、2011年）、拙稿「金原明善の天竜川治水構想と地域社会 近代移行期「名望家」の営みとその経済史的意義をめぐって」（渡辺尚志編『移行期の東海地域史 中世・近世・近代を架橋する』勉誠出版、2016年）など。なお同資料集は、金原家に遺されていた書簡などの文書や、金原明善記念館の初代館長を務めた水野定治らが収集した一次史料を基礎として編纂されたもので、その後の明善研究の水準を高めるものであった。
- <sup>6</sup> 斉藤新「金原明善 有志による天竜川改修事業の構想と頓挫」（静岡県近代史研究会編『近代静岡の先駆者』静岡新聞社、1999年）。
- <sup>7</sup> 渡辺尚志「金原明善と天竜川の治水・利水」（『静岡県地域史研究』第10号、2020年）。
- <sup>8</sup> 一次史料にもとづく明善研究の必要性と可能性については、拙稿「一橋大学附属図書館所蔵「金原家文書」解説」（『静岡県地域史研究』第10号、2020年）を参照のこと。
- <sup>9</sup> 金原家文書が一橋大学附属図書館に収蔵されるまでの経緯やその他の歴史資料の内容についての詳細は、註8拙稿を参照のこと。
- <sup>10</sup> 水利学校および同校の社費生徒については、拙稿「治河協力社附属水利学校の研究」（『静岡県地域史研究』第10号、2020年）を参照のこと。
- <sup>11</sup> 「履歴書」（『金原明善資料』下、899）によれば、戸川は1844年（弘化元）申辰11月17日生まれで岡山県美作国久米郡弓削町の出身。1855年（安政2）1月から同6年9月まで頼山陽門下の宮原謙蔵（節庵）に、1860年（万延元）10月より1863年（文久3）10月まで大坂泊園書院の藤沢昇蔵（東咳）に就いて漢学を修める。1977年（明治10）7月29日に治河協力社編輯係に就任。治河協力社ではその後、1879年（明治12）3月から同13年12月まで治河協力社附属水利学校で漢学等を教授したという。

1884年（明治17）7月に浜松を引き払って東京に転籍、静修学舎を建てて子弟に漢学を教えた。1904年（明治37）1月20日、東京において死去。

<sup>12</sup> 金原明善翁生家記念館所蔵資料。

<sup>13</sup> 1885年（明治18）8月28日に明善が金原幸平に宛てた書簡には「鈴木治三郎義脚氣病にて過日来箱根山へ湯治に罷出候、既に三週間已上に相成金三十円程（兩度に渡す）貸遣し申候」とあり、社員が病を患った際にも臨時金が支払われていたことがわかる。（『金原明善資料』上、77）。

<sup>14</sup> 川島については、註10前掲拙稿を参照のこと。

<sup>15</sup> 川島淹蔵『小伝』（静岡県立中央図書館歴史文化情報センター所蔵「寺田家文書」、史料番号g560）。

<sup>16</sup> 仁田は1822年（文政5）正月生まれ。駿河国田方郡函南村（現在の静岡県函南町）の出身。1871年（明治4）に居村の戸長に選ばれて1876年（明治9）まで務め、大区小区制下では四大区七小区の副区長を1872年（明治5）から明治9年まで務めた。実業面では、1873年（明治6）に有志者とともに伊豆国生産会社を創立して同社の頭取に就任し、1876年（明治9）に葦山製糸場と1880年（明治13）に牧羊社と号した牧羊場を開設するなどして、地域の産業化に率先して取り組んだ人物であった（山田万作編『岳陽名士伝』、1891年）。

<sup>17</sup> 『金原明善資料』下、838。

<sup>18</sup> 『金原明善資料』上、685。

<sup>19</sup> 落合弘樹『明治国家と士族』（吉川弘文館、2001年）、畠中茂朗「近代移行期における士族授産企業の設立と展開」（『東アジア研究』第14号、2016年）など。

<sup>20</sup> 当時の明善の周辺には、治河協力社の社員だった川村矯一郎や戸川深見、後述する小林八郎など、旧士族たちが複数人存在していた。

<sup>21</sup> 『金原明善資料』上、776。

<sup>22</sup> 『金原明善資料』下、838。

<sup>23</sup> 同上。

<sup>24</sup> 「土木監督署技師小林八郎外十五名官等陞叙ノ件」（国立公文書館所蔵史料、請求番号：任B00160100）。

<sup>25</sup> 「土木監督署技師従五位勲六等小林八郎陞叙官等官二等ノ件」（国立公文書館所蔵史料、請求番号：任B00234100）。

<sup>26</sup> 「休職内務技師小林八郎依願免本官ノ件」（国立公文書館所蔵史料、請求番号：任B00461100）。

<sup>27</sup> 『金原明善資料』上、80。

<sup>28</sup> 1891年（明治24）にも、明善は川村に大芋150頭・小芋60頭を贈ろうとしていたことが、他の史料からうかがえる（『金原明善資料』上、159）。

<sup>29</sup> 川村については、『近現代日本人物史料情報辞典』（2、吉川弘文館、2005年）、藤田英昭「八王子出身の幕末志士川村恵十郎についての一考察」（松尾正人編『近代日本の形

成と地域社会 多摩の政治と文化』岩田書院、2006 年）など参照。

<sup>30</sup> 明善の従五位返上一件については、拙稿「金原明善のなかの天皇」（日本学研究会編『学際日本研究』第 1 号、2021 年）を参照のこと。

<sup>31</sup> 『金原明善資料』上、679。

【論文】

一次史料から立ち上げる治河協力社の研究—金原家文書「事務書類」を手がかりとして—

伴野 文亮（東北大学大学院文学研究科）

要旨

本稿は、金原明善（1832－1923年）が明治7年に有志とともに設立した天竜川治水のための結社である治河協力社について、一次史料に基づいてその歴史化を試みるものである。これまでの研究史では、1968年に刊行された新谷九郎著『金原明善』を除いて、一次史料に即して治河協力社を研究するものはなかった。かかる研究史的課題を踏まえて、本稿では金原家文書「事務書類」を手がかりとして、金禄公債証書をめぐる同社と静岡県とのやり取りの軌跡と、明治10年代後半における明善の政府高官とのネットワークの具体的位相を明らかにした。

キーワード

金原明善、治水、金禄公債証書、一次史料、明治政府

[Article]

*Research on CHIKAKYOURYOKUSHA[治河協力社, Civil Engineering Association], starting from primary historical documents*

Tomono, Fumiaki.

Faculty of Arts and Letters, Tohoku University

Abstract

This study attempts to historicize CHIKAKYOURYOKUSHA[治河協力社], association for the flood control of the Tenryu River, founded by Kinpara Meizen (1832-1923) with volunteers in 1874, based on primary historical documents. Until now, there has been no research on the "CHIKAKYOURYOKUSHA" using primary historical documents, except for "Kinpara Meizen"[『金原明善』] by Shintani Kuro published in 1968. In light of these historical issues, this study uses "office documents" as a clue to clarify the trajectory of communication between the company and Shizuoka Prefecture over the

Certificate of Bond Allowance and the specific phases of Meizen's network with government officials in the late 1877s.

**Keywords**

Kinpara Meizen, Flood control, Certificate of Bond Allowance, Office Documents, Meiji government